

日本水工設計株



東京支社下水道一部調査課

雷晴さん

工学部都市システム工学科卒 入社2年目

親の勧めで来日、 大学で下水処理研究

日本の文化や長所を学んでほしいという親の勧めで中国から来日したが、最初は戸惑いの連続だった。しかし大学、会社と進むうちに親に感謝するようになったという。環境問題に興味を持ち、大学では下水処理を研究。学んだことを活かしたいと、上下水道を中心に河川、廃棄物も手がける総合コンサルタント会社の日本水工設計に入社した。

「下水道一部は下水道に関わる様々な計画を作成する部署です。具体的には基本計画、地震対策、津波対策、浸水対策などの計画を作っています」と

と流暢な日本語で説明する。数ある計画の中でも浸水対策に興味を持つ。中国でも浸水被害が多発しているから。日本の技術を提案できればと考えている。

分かりやすい資料 作りを心がける

部は約20人体制で、若手社員や女性社員が多い。現在、下水道基本計画の見直し作業を担当、管きよのストックマネジメントにも携わっている。入社して最初の仕事は津波対策の計画作成で、上司のサポートだった。

次に合流改善の事後評価を担当、初めて責任者となった。「合流改善の

日本と中国の技術のかけ橋に 社会への貢献がやりがい

せは緊張しましたが、上司のサポートがあり無事に終わりました」とホッとする。

仕事で工夫していることは「お客さまに分かる

基礎から勉強して流入量の現地調査、シミュレーションを行います。お客さまの打ち合わせ

やすく説明することを心がけています。資料は言葉だけでなく伝わりにくいのグラフを使い、分かりやすい言葉を使うようにしています」という。「うれしかったのは仕事終了後のアンケートで大満足と回答していただいたことです。対応が早いと記入していただきました。せっかちな性格が幸いしました」と笑顔を見せる。

充実した福利 厚生に満足

やりがいは「日本の社会に貢献していることです。外国人ではなかなか経験できないことだと思えます。上下水道は重要なインフラです。見えなるところで社会を支えているところに魅力を感じます」という。

将来は日本と中国の技術のかけ橋になりたいと抱負を語る。そのため「多くの地域の仕事をしたいです。地域ごとに課題が違つので経験を積んでいきたいです」と目を輝



打ち合わせを重ねて資料を作り込んでいく

かす。近いうちに技術士の試験にチャレンジしたいと語気を強める。「試験の勉強は技術力の向上につながります。試験に向けた社内勉強会に出ています」と積極的な姿勢を見せる。

会社については「福利厚生が充実しています。入社前に休みが取りやすいと聞いていて、その通りだと実感しています。経営理念にある通り、社員の幸せを考えてくれている会社だと思います。社長からはよく働き、よく遊べと言われていま

す。また、教育係の先輩は技術力が高く、お客さまとのコミュニケーションも丁寧で先輩のようになりたいと思います」と満足している。